

# SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

## 月刊シナピスニュースレター

Vol.  
77

2022.10

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子。  
それがシナピス(からし種)です。  
イエスは神の愛がすべての人におよび、  
互いに尊重し合い、  
愛し合うように願って平和の種をまき、  
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると  
約束しました。

カトリック大阪大司教区  
社会活動センター・シナピス  
TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203  
Email/sinapis@osaka.catholic.jp  
ホームページ/https://sinapis.osaka.catholic.jp/

今月のテーマ

「世界の一致を願う」

タイトル:

「主の食卓をみなで囲む」

# 巻頭言 共に生きよう！

仁川教会主任司祭 <sup>かずこし びん</sup> 和越 敏

社会の仕組みは「共に生きる」が基本です。これはスローガンではなく、人間性に根差した自然な有様です。その前提は、他者を受け入れ、他者に受け入れられることです。

しかし、各家族、共同体、社会の現状を見ますと、いつも誰かがパソコンや携帯電話、ゲームに夢中になり、食卓を一緒に囲みながらも会話をしていません。また、人種差別、外国人嫌悪感、障がいをもつ人に対して「気の毒」とか「可哀想」という気持ちで接したこともあるでしょう。

多くの社会的要因のために妨げられた共生性を回復するために、どうすればいいでしょうか。

アシジの聖フランシスコが残してくださった「謙虚さと兄弟性」をもって食卓を囲み、互いに話し合い、耳を傾け合い、利己主義を捨てて、会話をすることです。必要なことを分かち合い、ありのまま受け入れ合い、支え合いましょ。怒り、嫉妬ではなく、平安な心と微笑みで、自分の目、手、声の届く範囲の身近な人たちを置き去りにせず、多くの人と連携をしていきましょう。あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切に、あらゆる偏見や差別を排除し、誰もがその人らしく暮らすことが出来る地域社会を実現しましょう。

改めて「感謝の祭儀の神秘」に目を向けてみましょう。主はすべての人のためにご自分のからだを裂き、ご自分の血を注ぎます。キリスト者の家族の生き生きとした力強い契約は、日々の苦労や喜びを貫き、包み込みます。ごミサは、受容し救う力をもって交わりを新たにすることが出来るのです。キリスト者の家族は、見捨てられた人、排除された人を受け入れ、守り、共生することができます。

「喜ぶ人々と共に喜び、泣く人と共に泣く」（ローマ 12・15）という聖パウロの言葉を思い起こしながら、全ての家族・共同体の共生性が、今後とも育てられ成長するよう、心を合わせて祈りましょう。感謝と賛美のうちに！



## 今月のページ

### ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 絵画コンテスト発表
- 3 子どもの本で平和をつくる⑥
- 4 障がい者委員会より
- 5 岸和田地区シナピス学習会
- 7 時報 10月号より
- 11 「経口中絶薬承認に反対する署名」に対する反響第2弾
- 16 祈りのつどい報告
- 17 教皇祈りの意向「死刑廃止」
- 18 ほーむだより
- 21 みんなのけいじばん
- 23 あとがき



### チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・10月の祈り
- ・ロザリオの祈り
- ・シナピス工房カタログ Vol.5
- ・わすれないあきらめないカレンダー
- ・ウェルミナ公開講座
- ・とめよう戦争への道 目指そうアジアの平和 2022 秋 関西のつどい



#### 年間テーマ

##### ～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまとっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

# 絵画コンテスト 受賞者発表

第1回シナピス主催絵画コンテストに多数ご応募をくださり誠に有難うございました。  
応募作はどれも作者の「平和」についての思いが伝わる素晴らしい作品でした。  
厳正な選考の結果、受賞作品を発表します。おめでとうございます。  
受賞作品は、今後シナピスニュース表紙にて掲載する予定です。(時期未定)

## ◆大司教賞◆

鳥羽 百合(とば ゆり)さん  
「いつもの午後の演奏会」

## ◆シナピス賞◆

セナトーレ まもるさん  
「かぞくがにじのしたでわらってるよ」  
松永 珠実(まつなが みみ)さん  
「平和に向かって」  
柳川 健(やながわ けん)さん  
「再会」

## ◆ピース賞◆

セナトーレ めぐみさん  
「雨上がり、だいすきなものにかこまれて」  
高木 郁乃莉(たかぎ いのり)さん  
「祝福の食卓」  
堀田 碧乃(ほった あおの)さん  
「つなぐ手と手」  
堀田 楚乃(ほりた その)さん  
「原爆ドーム」  
柳川 圭(やながわ けい)さん  
「ボールをなげているところ」

(※発表は50音順)

※表彰状授与式の様子は後日ニュースに掲載します。お楽しみに♪

# 子どもの本で平和をつくる ⑥

たごけいこ  
多湖敬子



きょうしつにはいると、そこにいる みんなが  
きみとはちがっています。

きみの くちから でてくる ことばが、  
だれにも わかって もらえないことがあるでしょう。

おかあさんが きみに つくってくれた おべんとうが  
ほかのこたちには めずらしくて、  
かわったものに みえることがあるでしょう。

せかいの そとがわに ずっと  
たったままでいる ように おもう ことがあるでしょう。(本文より)

## みんなとちがうきみだけど

作：ジャクリン・ウッドソン

絵：ラファエル・ロペス

訳：都甲 幸治

出版社：汐文社

価格：¥1600+税

肌の色が違う、言葉や文化、家庭環境が違う。それだけで仲間とは別の存在なのでしょう。大勢の人と違うことは苦しいことかもしれません。でも、たった一人でも理解してくれる人がいるとしたら…。

きみの なまえは ぼくの いもうとと おなじだ、  
リゴベルトが いいます。  
いもうとも アンジェリーナって いうんだよ。

そして とつぜん、せかいが ほんの すこしだけ ひろくなって  
きみの いばしょが あらわれます。みんなが きみとは ちがっている きょうしつで。(本文より)

言葉や文化の違いを超えて理解し合うためには、まず勇気をもって声を出すこと、共有できる部分を確認し合い、認め合うこと。お互いに多様性を認め合うことで、この世の中が少しでも呼吸しやすく、生きやすくなるのではないかと、この絵本は問いかけているようです。

『絵本で学ぶSDGs』（平凡社 別冊太陽 ¥2400+税）の中の「16 平和と公正をすべての人に」という項目の中に、次のように紹介されている絵本『せかいのひとびと』※があります。

「世界には80億もの方が住んでいるが、同じ人はいない。違うところを挙げたらきりがないが、この絵本※ではページ数の許す限り詳細にとり上げていく。顔の色や形、髪型や服装の好み、性格や趣味。そして民族ごとに言葉と文字、料理や住居、街並みなどのそれぞれが列挙される。

ペットは犬猫が多いが、世界にはサルやスカンクを好んで飼う人もいる。みんなで何かをするのが好きな人もいれば、一人でいるのが好きな人もいる。

このように描写されると、違うことが『あたりまえ』で、これが人間の特性なのだ気づかされる。そして、いろんな価値観や考え方があることが、文化を豊かにするのだとわかる。

違いを認め合い、違う人とうまく交流していくことが、平和の基礎になるのだろう。一方、自分たちと違うというだけで、よその人たちを嫌うことが紛争の火種になるのではないかと、『違い』を思う存分楽しませてくれる絵本だが、その本質は壮大だ。」(百名朝彦/絵本専門士・児童書出版社)

※『せかいのひとびと』（ピーター・スピアー：作絵 松川真弓：訳 評論社 ¥1500+税）

『みんなとちがうきみだけど』と『せかいのひとびと』を合わせて読むと、子どもたち(大人も)の世界観が広がり、多様性をより深く理解することが出来るのではないかと思います。

### 「神の栄光を賛美する共同体」 様々な個性や障がいをもつ人の共同体の祈りと歌

障がい者委員会担当司祭

いしいのぞみ  
石井望

二つの教会のミサの歌について考えさせられたことを分かち合います。

#### ☆上手な聖歌グループのある教会

一つ目の教会のミサでは音楽家が指導する聖歌奉仕グループがあり、声楽を学んだ人やシスターも加わっていました。オルガン伴奏は、演奏に慣れた人が担当していました。みんな良く練習をして頑張っていました。これが演奏会の舞台だったら、楽譜にも忠実に上手で美しい響きに拍手が起こっていたかもしれません。でもミサの時に、音やテンポを外す人は睨まれたり、笑われそうで歌いづらい雰囲気もありました。

#### ☆各人マイペースで歌う教会とおばあちゃん

二つ目の教会では、だいたいみんなが「地声」で歌っていました。オルガン伴奏はない時であれば、一本指でメロディーだけを弾くときもありました。それぞれの人がそれぞれの音程でそれぞれのテンポですが心を込めて祈り、歌っていました。またこの教会にはかつて近所の高齢の女性が、いつも笑顔で来ていました。信者ではありませんが、祈りと聖歌が大好きで、音を外したりずれたり、祈りもワンテンポ遅れて大きな声で「アーメン」と答えておられたので、正直慣れるまで「耳障り」に感じていました。ゴメンナサイ。

#### ☆いなくなって気づかされたこと

ある日からこの女性は事情でミサに来なくなりました。大切な何かが抜け落ちた感じです。音程も調子も外れたあの元気な声、ワンテンポ遅れた「アーメン」がない。その時に教会の祈りや歌で大切なことに気づかされました。楽譜に忠実に美しい響きがあっても一つ目の教会の雰囲気の味気無さの理由は、この「大切なこと」を犠牲にしていたのではないか？

神を賛美する共同体の祈りと歌は、楽譜を読んで忠実に美しく歌うことでも、美しい響きで気持ちよくなることでも、鑑賞するものでもない。もしミサの中で拍手を送りたい「演奏」が行われたりそれを求めるとしたら、逆に場違いなのかもしれない。しかしそんな雰囲気がまかり通っていることも否めません。

#### ☆こんな共同体でありたい

それぞれの個性や障がいを持つ人が心からの祈りと歌をささげ、神を賛美することのできるミサ、互いにそれを大切に、味わい、感謝できる共同体でありたい。そこにイエスさんが一緒にいてくださる。



# シナピス 移動学習会 「情報保障としての要約筆記」報告

実施日時：2022年9月11日（日）午後2時～3時30分

実施場所：カトリック泉佐野教会 会議室

講師：4人 カトリック大阪大司教区 要約筆記グループ“エッフアタ！”

参加者：14人（岸和田4，泉佐野3，岬2，熊取、住吉、大阪梅田、六甲各1）  
（シナピス1）

主催：岸和田地区宣教評議会社会活動委員会

共催：カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

報告：岸和田地区和泉教会信徒 にっただよしこ 新田良子

主な内容：

- ① 情報保障とは（講義）
- ② 要約筆記とは（講義）
- ③ 筆談をしてみよう（実習）
- ④ 要約筆記をしてみよう（実習）
- ⑤ 要約筆記の実例紹介
- ⑥ 質疑応答



資料（シナピスニュース 2022年3月号）を使い、グループのメンバーより

情報保障とは何か、要約筆記とはどのようなものなのかをわかりやすく説明していただき、実際に例を用いて筆談やレコーダーから流れる音声を聞きとり要約する体験や、制限された時間内に要約することの難しさを知る機会になりました。

日常生活の中で必要とする方に筆談や要約をして伝えることはもちろんのこと、ミサ次第の文字を大きくスクリーンに映し出して表示することで、聴覚障がいのある方にとどまらず、高齢化する教会ではますます当たり前のこととして取り入れていくことが望ましいと感じました。

## ○●○参加者アンケート○●○（回答12人より）

①学習会に参加してどのように感じましたか。 良かった10人、普通2人

②特に心に響いたこと、気が付いたことは。（自由記載）

- ・社会の中に様々な障害があることに改めて気が付きました。
- ・今後、高齢者が増えてくるので要約筆記は必要です。
- ・人との交わりの大切さを痛感しました。など



③ご感想をお聞かせください。（自由記載）

- ・パソコン入力が難しそうなので、せめて筆記でお手伝いできたらと思う。
- ・実技の練習がおもしろかったです。
- ・要約筆記について1人でも情報が広がり、障害について理解が広がるように思います。ありがとうございました。

# 聴覚障がい者と情報保障

要約筆記グループ“エッフアタ！” 新田良子



このタイトルを見て、読もうと思ってくださった方、ありがとうございます。

「硬いですよね。なんじゃそれ」と思いますよね。

ではまずタイトルについて。

「**聴覚障がい者**」って誰のことでしょう。①**ろう者**：言葉を獲得する前から聴力に障がいがあり、手話を母語として育った方です。幼少期から聴覚障がい者だった

方で言語障がいを併せ持つ場合は、ろうあ者とも言います。②**中途失聴者**：思春期以降もしくは成人してから失聴した人です。筆談や要約筆記が有効な場合が多いです。③**難聴者**：補聴器の使用によって音声言語の識別がある程度まで可能で、音声言語を通常のコミュニケーション手段としている人です。(出典：要約筆記者養成テキスト上)

次に、「**情報保障**」とは、身体的な障がいにより情報を収集することができない者に対し、代替手段を用いて情報を提供することです。特に聴覚障がい者は、音声によって提供される情報や会話を理解できないため、日常的に情報から疎外されているといえます。そのため、一般的に「情報保障」とは、聴覚障がい者に対するコミュニケーション支援を指して用いられます。

(出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

それでは、視覚による代替手段にはどんなものがあるでしょう。**手話、要約筆記、音声認識、筆談、字幕**など。私たち“エッフアタ！”が担当しているのは、要約筆記です。それでは、要約筆記とは？ 話されている内容を要約し、文字として伝えることをいいます。あくまで聴覚障がい者のために「発話時点で要約し、通訳すること」を保障するのであって、音声の記録行為とは異なります。

大阪教区では、かなり前から要約筆記を実施されていました。私自身、要約筆記を初めて見たのは、玉造のカテドラルでした。文字がどんどん上がっていくのを見て、「すごい」って感動しました。その時の感動が忘れられず、いつか要約筆記をしてみたいと思っていました。でも、なかなか要約筆記者養成講座に参加することができず、60歳になってやっと講座に通うことができ、3年間勉強して、要約筆記者の資格を取得することができました。それで、「何かお手伝いできることはありませんか？」とお声がけしたところ、以前から取り組まれていた障がい者委員会の石井神父と吉川さん、大阪市主催の養成講座を受講された安見さんと一緒に、グループが立ち上がりました。今は、若いメンバーや正義と平和協議会大阪大会での要約筆記のことで関わって下ったシスターも加わってくださり、教区ミサでの要約筆記を任されています。

わたし自身は、自分の小教区(和泉)の毎週のミサの要約筆記もさせてもらっています。文字があることで、祈りを覚えない人が出てくるとか、スクリーン(ホワイトボード)で侍者が見えなくなるとか、いろいろ言われますが、耳が聞こえづらい高齢者の方々には喜ばれています。

今年から、要約筆記グループ“エッフアタ！”の練習会が定期的に行われることになりました。5月からです。毎月第2水曜日13時~15時、教区本部事務局で行います。参加費は無料です。パソコンを打つのが得意な方、得意でない方も一度のぞきに來てください。



耳マークです。  
聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークです。

## イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、  
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、  
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」  
増補新版より

平和旬間 2022 - 10 Days for Peace



# A Road to Peace : Listening to One Another

互いに耳を傾けて平和への道を



互いに耳を傾けて平和への道をコロナウイルス感染拡大により、予定を変更、中止された行事がありました。

◆姫路地区西ブロック 8/7(日) ブロック行事から各小教区での主日のミサ説教に切り替え開催した。小教区の枠をこえて交流を楽しみにしていただけに残念という声が多数あった。真の平和への道を人として歩み通したイエスに習うべく、今年のテーマに沿ってキリスト者として「聴く」事の大切さを聖書を通して学べるよう計画した。

◆姫路 8/6(土)~15(月)「日本カトリック平和旬間」が定められた経緯を紹介し、7月に信徒から平和の祈り(共同祈願)を募集した。日本語だけではなくベトナム語の祈りも多く寄せられ、祈願文は旬間の期間中、毎日のミサの中で祈り繋いだ。



◆仁豊野 8/7(日) 平和祈願ミサと7月中旬より核兵器に関する資料を掲示し、それに対する思いを募集した。また7/31と8/7にはアニメ「いわたくんちのおばあちゃん〜ぼく、せんそうせんけえね〜」を上映。感想を分かち合った。戦争体験者が高齢化する中で若い世代へ伝える対策が必要。未来を担う子どもたちへ働きかけ、ポスターはベトナム語翻訳に取り組んだ。



◆佐用 8/6(土)・9(火)・15(月) 広島、長崎原爆の日、終戦の日に教会に集い、鐘を鳴らし、「平和を求める祈り」を唱えた。人は「なぜ戦争へと向かうのか」を、あらためて、問い直した平和旬間だった。「長崎原爆の日」には、隣接する作用マリア幼稚園園児と先生方が参加。その笑顔と祈りはまさしく「平和アピール」だった。



◆東ブロック 8/7、14、21、28(日) 4回に分けて平和祈願ミサを開催。テーマは「違いを認め合い、一人ひとりの命を大切に、戦争のない平和な世界にしよう」。チラシ、教会週報で信徒全員にテーマ及び内容を知らせ参加できるようにした。外国人や子どもたちにも積極的に呼びかけ、「平和への祈り」を作成した。



◆洲本 8/7(日) 12の平和テーマに即した共同祈願を信徒に呼びかけた。よびかけは英語でも行い、フィリピンの人もいっしょに祈ることができた。事前準備から多くの人に参加してもらうことで過去の戦争を顧み平和を希求する思いをひとつにすることができた。



◆神戸中央 8/7・14(日) 特別なイベントは出来ないと判断、平和旬間の周知と家庭でも祈ることができるように祈りのシートを作り、あわせて2回のミサ前にみんなで祈った。ウクライナとロシアのこともあり平和の意味、大切さを以前より感じている。



◆夙川 ＊平和旬間日記8/6(土)～15(月)、「家族とともに平和を考える図書コーナー」開設 ＊7/17(日)～9/4(日)平和祈願ミサ ＊8/7(日)ビスカルド篤子さん(シナピス)の講演。Line 連絡網、Google フォーム、QRコードなどを使って周知や投稿の便を図り、自宅はもちろん海外を含む遠隔地から参加できるようにし、講演動画を教会ホームページに掲載している。



◆仁川 8/6(土)～7(日) 8/14(日)平和祈願ミサ 「本土復帰50年」の沖縄が今もなお抱える苦悩を、「日本の問題」として感じてほしいという思いで、沖縄の小学生が作った「平和の詩」を社会活動委員が朗読した。「平和旬間」の意義を伝え、「過去を振り返り、将来に対して平和を築く責任を担う決意の時」にしたいと願った。



◆園田 8/7(日)「戦争の体験」留永越里さんはベトナム戦争を体験し、知り合いと家族でボートに乗ってベトナムを脱出。途中で様々な苦難に遭ったが、ギリシャ船に発見され、福島県いわき市小名浜港に上陸しその後帰化。厳しく難しい体験を1時間ほど語ってくださった。

◆伊丹 8/14(日) テーマ「優しい世界は些細なことから」篠原富美子さんの講演(キャリアコンサルタント) 傾聴ボランティアを長年継続。戦争やパンデミックを止めることは難しくても、一人ひとりが「相手に耳を傾ける(傾聴)」ことから優しい世界、平和の実現に繋がる。「傾聴のメリット」「傾聴のコツ」など日常でもすぐに役立つ話だった。8/15のミサでは特にウクライナとロシア両国への早期の平和を祈願した。



◆尼崎 8/7(日)平和に関する祈りのパンフレットを配布した。ミサ後、コルベ記念館の館長だった小崎登明(おざきとうめい) 修道士(聖母の騎士修道院/長崎原子爆弾被爆者)の話(YouTubeにアップロードしたものを鑑賞)。今後、小教区同士が合同web講演会なども開催できるのではないかと期待する。



◆武庫之荘 8/14(日)信徒が一致して平和を祈りながら協力してオブジェを作成した。平和を単に戦争のない状態と捉えるだけでなく、日々の生活の中で「傾聴」「尊重」「相手を理解しようとする態度」「誠意」を実行し、平和を実現する「対話」を行えるよう、イエスが示した「平和」とはどのような状態であるのかを理解できるようにとミサ説教でモラレス神父より話を聞いた。



◆高槻 7月の主日のミサで「世界平和の日2022 教皇メッセージ」を配布「祈りの短冊」を呼びかけ、8/15(月)のミサで奉納した。寄せられた祈りの多くは日常で小さな平和を築いていくことが、真の平和の実現に繋がるという思いが一致していた。自宅待機者や他の教会の人とも共有できるように教会のホームページにアップできないかとの意見もあった。



◆池田 8/7(日) 平和祈願ミサ 畠基幸 (はたもとゆき) 神父(御受難会)による講話。ミャンマー滞在時を振り返り、クーデター以降の平和からほど遠い状況を見て、今の思いを語っていただいた。話だけでなくスライドもあり、より実際経験された活動の様子があった。



◆吹田 8/14(日) 平和祈願ミサ 司式：井田明神父 霊的花束を作成 大きな虹は希望の架け橋と平和への道、ひまわりと青空はウクライナ国旗を現した。祈りの鶴は、戦争で亡くなった方々への鎮魂の祈りを込めた。戦後 77 年を迎え、原爆が投下された広島、長崎を思い、真の平和への願いがこめられたメッセージが多かった。

◆北地区 8/13(土) 7人の方から『キリスト者としてのあなたにとっての平和』というテーマでスピーチをしていただく予定だったが、中止となった。互いに耳を傾けて平和への道を少しでも切り開いていけるようにと願いつつ、平和への思いを語っていただける日を待ち望みたい。平和祈願ミサのみ開催。司式は酒井俊弘補佐司教。



◆大東 8/7(日) ミャンマー難民自身から日本では報道されないミャンマーの現状や難民としての厳しい状況をお話しいただく予定だったが、事情によりお越しただけず、社会活動委員会よりミャンマーをテーマとしたいきさつや歴史、厳しい現状について話し、またシナピスのビスカルド篤子さんから難民をめぐる問題点、私たちにできることを話していただいた。平和の祈りのカードを配布した。



◆枚方 8/7(日) 信徒の体験(空襲・広島)と「平和と一致」について分かち合いを深めた。他人事の戦争の話や言葉だけの平和ではなく、戦争と隔ての壁の根元を自分事として考える時を持てた。



◆堺 8/7(日) DVD「戦争童画集～75年目のショートストーリー NHK 放送史」視聴。分散ミサ継続中ではあるが、それなりの参加があった。分かち合いは出来なかったが記憶が薄れゆく戦争の歴史を知る機会となった。



◆金剛 8/7(日) DVD「夏服の少女たち」上映。広島で原爆が投下され爆心地から 800 メートルの地で学徒動員中に被爆した広島第一高等女学校 1 年生 220 人の少女たちの話。それとあわせて広島出身の方のリアルな話も聞き、平和を考える機会になった。



◆枚岡 7/24(日)ミサ説教でウクライナ人道支援ポーランド在住の兵頭博(ひょうどうひろし)さんの話。7/26(火)直接ポーランドとリモートでつなぎ、現地の方々と質疑応答。8/7ミサ説教時、漆原比呂志さん(JLMM)によるカンボジアの話も聞いた。また、旬間期間中、アシジの聖フランシスコの祈りを配布し、10日間祈った。



◆玉造 8/10～15 戦争の写真と絵本展示 7/24(日)～千羽鶴作り 8/7(日)戦争体験者の話を聴く。今回初めて青少年委員会と合同で開催。多数のアイデアが出たことと、こどもや保護者の参加につながり良い時間となった。



◆住之江 8/7(日)テーマ「私は平和を築くためにどう行動するか」シベリア抑留者の証言動画「行く先も分からずに」を視聴。太平洋戦争、ベトナム戦争、朝鮮戦争の体験談、体験者または親族から見聞きしたことを話していただいた。その後分かち合い、平和への決意を作成し、聖母被昇天ミサで奉納。爆撃で破壊された大阪の惨状を伝える写真パネル展示も行った。



◆貝塚 7/31(日) ミサの中で、司祭が作成したビデオ(13分)を上映。過去の戦争ではなく、あるアフガニスタンの難民家族の状況を例にあげ、教皇の具体的な言葉を用いて互いに耳を傾け平和への道を考えて。



◆熊取 7/31(日) ビデオ鑑賞と司祭の話

テーマ：「難民の家族の絆、みまもること、平和の道へ」アフガニスタンから日本への避難者についてのDVD鑑賞。平和について考えるきっかけに、7月からミサの共同祈願で「聖書と典礼」パンフレットに3項目を追加。1～2項目は平和を願う祈りとした。日本政府の不十分な難民受け入れの対応と実状との差を感じながら、祈ることしかできないことを痛感した。



◆紀の川 8/7(日) 平和祈願ミサの説教において平和を考える内容としミサの中で「平和の祈り」を唱えた。コロナで講演会が中止となったが、計画や準備、事前に告知することによって教会はいつも平和を考え作り出すことを推進していると言う意識を確認出来た。



◆泉佐野 8/7(日) 2022年度、平和旬間テーマ「互いに耳を傾けて平和への道を」に向けてYouTube動画「ウクライナの平和のための祈り」の中のロザリオの祈り、一玄義を、各ミサの参加者全員で唱えながら、全世界の平和を願いました。コロナ感染の影響で、岸和田地区ユースの友ヶ島での平和学習が延期になり、コロナが落ち着き、実施されることを期待します。



◆和歌山紀北 8/7(日) 互いに耳を傾けることの大切さと難しさについて、司祭の話や分かち合いを通して考えた。古屋聖堂、屋形町聖堂が発表。第二次世界大戦時のロシアの従軍女性500人あまりの証言を聴き「戦争は女の顔をしていない」を書いたスヴェトラナ・アレクシエーヴィチに触れ、あらゆる違いを知り、それを乗り越えていける視点を持つことを目指した。



◎詳細は、冊子にして後日各小教区へお送りいたします。

<シナピス事務局>

# 「経口中絶薬承認に反対する署名用紙」に対する 反響を受けて 第2回

先月に引き続き、いただいたご意見を掲載いたします。



## ◆Y.Sさん

9月号のシナピスレター、じっくり読ませて頂きました。

私の所属する教会では、神父様から「経口中絶薬承認に反対する署名」への協力をお願いしたいとのアナウンスがミサのお知らせでありました。

正直、とても違和感がありました。

多くの方が署名されていた中で、どうしても署名する気持ちになれなかった。

そして、シナピスレターにもその署名用紙が同封されていて、少しショックすら受けました。

というのも、私は経口中絶薬承認に対しては賛成の立場だからです。

中絶が、お腹の赤ちゃんの命を奪うことだということは、重々承知しています。

お腹にやどった命が大切であるのは、もちろんそう思います。

しかし、現実の世の中では、望まない妊娠をして追いつめられる女性がどれほど多いことか。

その女性の命は、人生は、軽んじていいのだろうか？

もし産んだとしても、産まれた子の命が軽んじられることはないだろうか？(もちろん、望まない妊娠だったとしても、出産し、すくすく育っていく子どももたくさんいます。けれども、望まない妊娠からの貧困・虐待というケースもたくさんあり、母親と子ども、2つの命が軽んじられると感じます)

そしてなぜ、女性だけがそれほどの重荷を負わないといけないのだろうか。男性の責任は??

出産直後に子どもを殺してしまうニュースや、ブラジルで10歳の子どもが妊娠しても中絶をさせなかったニュース…

カトリックの教えは大切だけれど、現実を見たら、中絶に反対!とはとてもじゃないけど言えません。

親しい知人が、望まない妊娠をして人工中絶手術を受けたことがあります。

日本での人工中絶は掻爬法が多く、母体への危険性が大きいものです。

そのためWHOは、掻爬法よりも経口中絶薬のほうを推奨しています。

知人(掻爬法だったと聞いています)が、心身共にものすごく傷ついている姿を目の当たりにした私には、なぜ母体に負担があり危険な掻爬法は認められていて、より安全な経口中絶薬は認めてもらえないのか、理解ができません。

私は薬剤師をしています。

薬には、効果がある一方、リスクがあります。

経口中絶薬が危険だと言われますが、例えば痛み止めで有名なロキソニンでも、重篤な副作用はたくさんあり、死亡例もあります。

では、死亡例があっても危険だからとロキソニンの承認を取り消すでしょうか？

リスクがあっても、その薬が必要な人がいます。

経口中絶薬も、重篤な副作用が起こる可能性がゼロでなかったとしても、望まない妊娠をした女性のために必要な薬であり、海外でも使用経験の多い薬であれば、日本でも承認審査をした上で承認すべきだと思います。

一番「必要な人」、一番「弱い立場の人」に、照準を合わせる必要があると思います。  
(少し話は違いますが、今、性交渉から 72 時間以内に服用すれば避妊することができる緊急避妊薬を、研修を受けた薬剤師のいる薬局で購入できるようにする動きもあります。  
それも、望まない妊娠を避け、追いつめられる女性をなくすために、必要なのではないかと思います。)

教会で署名への協力を求められて、違和感を感じてモヤモヤしていましたが、9 月号のシナピスレターを読んで、同じくこの署名に対して違和感を感じられた方がいたということに、正直安堵しました。  
でも署名活動している場で、「私はその署名に反対です」とは言えなかった…言えれば良かったのかもしれないけれど、多くの方が賛同している中で、言えない自分がいました。  
だからこうやって、様々な立場からの意見を丁寧に取り上げていたシナピスレターを読んで、「あ〜こういうの、いいなあ!」と思いました。



たけだまい

#### ◆竹田舞さん

私達の信仰において「命を絶たない」は当然大切。  
機関誌サイドは「どうあっても生む」スタンスでらっしゃるので、様々な意見に驚かれたことだろう。  
だが、日本のキリスト者は国民の数パーセントの実情。  
残り 90%以上の国民の信条・信念を置き去りにしてはいないだろうか。  
自分たちの考え・信仰・信条を押し付け、裁くのは第2バチカン公会議以前のカトリック教会の姿勢だと思う。  
さらに社会から小さくされている女性たちの数は 50%程度かもしれないが、彼女らの生きる選択肢を積極的に減らそうとする姿勢に疑問を感じる。  
妊娠の過程に【必ず】介入する男性との議論を手始めに、他に優先的に解決していく課題があるはず。あまねく、み目が地にも行われるためにも、段階を踏まえて勉強・議論・行動すべき。

#### ◆Aさん

シナピス側から「経口中絶薬が危険な事例がある」「意見を交わす機会ができてよかった」という内容が繰り返されている。取り上げた事例は、経口中絶薬を使ったケース全体のうち、何件の事だろうか。何百万件の事例ずつだったら、説得性はない。  
統計学として、数字に本当にイミがあるのか「有意差」から検証して組織として意見を述べるのが適切ではないか。個々の事例を大切にすぎている。  
シナピスの人は、掻爬法での事故や不妊問題には興味なくて知らなさそう。

#### ◆Bさん

日本の産科が許可している中絶方法は「掻爬法」。  
掻爬法について WHO は日本に「術後の不妊に繋がってしまう古い方法をやめなさい。」等の勧告をしています。掻爬は子の肉体への残忍な行為だと思います。  
科学的に健康に害のある方法になぜ固執するんですか。  
命をまもるためのモラル教育を叫ぶほうが、望まない妊娠を防いでよい実りをもたらすと思います。

## ◆Cさん

産めない人が頼れる組織を増やすべき。修道会の雑誌・教会メディアでよく見かける「生命尊重センター・円ブリオ基金」の紹介。コウノトリポスト利用の呼びかけ。

教会は自分たちで具体的には何もせず、悩む人を右から左に流して、他組織に押し付けている。

さらに、日本会議・神道・家庭連合とのかかわりが指摘される生命尊重センター系の運動にカトリック教会まで乗ってしまっているのか。

逆説的ではあるが、カトリックの「命を守る」教義は、他組織から利用されている状態なのでは？



きたがわみつひろ

## ◆北川光裕 さん(香里教会)

今回の議論で不足しているように思われたことは「私の身体は私以外の誰のものでもなく私だけのものである」という自己決定権の基盤となる倫理です。これは生後できるだけ早い時期になされるべき性教育の要でもあります。

「私の人生は私が決める」というこの当然の自由を享受する社会では、中絶の決断に迫られている女性は自分以外の誰からもその判断の強制を受けない権利があります。その権利を保障する社会体制があるため、納得できる判断に辿り着く十分な知識を幼少期から身に付けており、仮に困難な状況にあっても救済する法的基盤が整っています。自立した個人を尊重する市民意識が自由と権利を守る制度を支えるのです。

胎児の大切さを説くことによってその人の判断に干渉することはもちろん、手術か経口薬かという選択を制限することも、その人の自己決定権を冒していることになります。それは干渉の結果の良悪や薬の品質とは別の話です。

ただし、その自己決定権の行使が他者の自己決定権を奪う場合には当然ながら衝突が生じます。たとえば配偶者の意思と相反する場合や、薬品の安全性確保に責任がある役務に就く人の倫理観が許さない場合です。前者については、胎児は成長を待ってくれないという当たり前のことからしても、夫婦間で合意ができない場合やそもそも信頼関係がない場合には、常識的には相談するか否かも含めて女性本人の選択が優先されるべきでしょう。後者については問題が関わる広い範囲に目を向ける必要があります。現在の経口中絶薬は海外で30年以上前から使用され安全性は高いと言えます。WHOは、医療提供者の直接の支援なしに妊娠12週以内であれば自分で安全かつ効果的に中絶を自己管理することができ、自己管理は費用や時間的制約や移動範囲の削減、恥辱へのコントロール、速やかな妊娠の終了などの理由で実用的であるとし、中絶の過程に対する主体性や安心とサポートを確保できることを高く評価しています。

ところで、「いのち」を主張する人達は、いかなる点で自らの自己決定権が害されていると感じるのでしょうか。また、いかなる理由で「あなたが」当事者に対して主張するのでしょうか。

主体を明示せず空虚な連帯意識から「いのちの大切さ」を唱えることは、「いのちに関わることなら個人の権利を抑圧してもよい」という風潮を創り出す危険があります。

文明社会においては誰もが自分の意思でこの恵まれた環境を最大限に活用して生きたいと望んでいるはずですが、しかし、誰もがその恩恵に均等に与れるとは限りません。特権に与る自分が謳歌している自由を不遇の立場に追い込まれた人のためにどのようにしてどれほど使っているかが、市民社会の成熟度を計るバロメーターとなります。

残念ながら日本という国は、2003年の七生養護学校弾圧事件で先進的な性教育に対する都教委によるバッシングが起きてから、小中学校での性教育の萎縮が進んだ結果、十代の中絶率を増加させた社会。「個人」を、自由と権利を尊ぶ市民社会の構成員としてではなく、「自己責任」を追及する標的として捉える社会。男尊女卑に固執し、国政では「女は産む機械」と発言、地方では赤子を抱いて議会に出席した女性議員に同伴を断念させる有様。さらに、コロナ禍において感染対策と称し陽性の妊婦に対して、逆に周囲の感染の危険が高まる帝王切開手術を強要し、リスク・ベネフィットを考慮せず出産直後に母子を引き離すガラパゴス産科医療。

このような状況においては、いくら安全な薬があっても安全な取り扱いができない可能性が高くなります。(経口中絶薬の安全性については上述のWHO以外にFDAも信頼に足る機関として参照されるべきです。使用条件については厳格さを追求するに越したことはありません。)。求められるべきことは、当事者の女性の「真意」を洞察しそれに沿った処置ができる専門家へのアクセスルートを増やし自ら活用できるようにすることです。

私たちはもっと怒ってもいいのではないのでしょうか。差別に、人権侵害に、愚かさ。人口の半分を構成する女性に対する差別に無自覚なままでは、生まれてくる子どもが様々な状況で苦しむことになる差別に、大人たちがしっかり立ち会えるとは到底思えません。

(今や胎児の自己決定権をも考慮に入れる時代なのかもしれません。無認可の新型出生前診断の結果にショックを受けて中絶を希望しに来た人が、医師から実際の胎児の状態について丁寧な説明を聞き、土壇場で踏み留まったケースがあります。この傾向は望ましいとは言えなくともまだ理性的な例と言えるでしょう。)



#### ◆K.Fさん

この度は9月号で、経口中絶薬反対署名に関する意見を掲載していただき、ありがとうございます。他の方のご意見、みなさまのご意見を読んで、皆それぞれに色々考えを持っておられることがわかりました。

私自身は、このことがあって、所謂生命尊重運動というのはいつから始まって、どのように展開されてきたのかを調べる契機になりました。

そして、この薬について反対の立場をとっておられる方の意見についても知ることができました。

いろんな見解があるのは当然として、一つ気になっているのは、女性が安易に性行為をして、簡単に墮胎をするという考えをされている方がおられるのだなということです。

ここには、胎児の命を奪うということに関して、女性に非があるという考え方があるのではないかと感じました。

しかし、聖母マリアのような人は現実にはいませんので、妊娠するには必ず相手がいる、その人の責任についても考える必要があると思います。

こういう問題について教会で話すとしたら、男女(に限らないところもありますが)がお互いに大切にしようという関係ができているのかどうか、そこを振り返る作業から始められたらいいなと思いました。





◆<sup>くりたりゅうこ</sup>栗田隆子さん

2022年9月号シナピスを拝読しました。8月号の「経口中絶薬反対」の署名を受けて違和感を覚えた私のような立場の人々の意見、それを受けたスタッフの意見それぞれを拝読しました。まずこのようなコーナーをきちんと作ってくださったことに感謝申し上げます。また皆様の真摯で率直な意見が展開されたことにもとても嬉しく思います。そしてこのコーナーで見られたような意見の違いは当然シナピス内部、カトリック教会内部にとどまる話ではありません。日本社会や世間に迎合する必要は全くありませんが、しかしその違いが「イエスの生き方に倣って」日本社会や世間と違うのではなく、単純にカトリック教会の方が日本の一般社会より性差別や偏見が強い故に違うのであれば、そこは改める必要があるでしょう。

さて、そのように考える中でシナピスのスタッフの方々のご意見の中にいくつか違和感を覚えるものがあり、それはシナピスのスタッフのみならず経口中絶薬（あるいは中絶そのもの）に反対する人たちが持つ意見だと思われましたので触れさせていただきます。それなので下記の私の意見は個人攻撃ではなく、このような意見そのものに対する違和感と考えていただければ幸いです。

一つは経口中絶薬を性的快樂のために使う人が出てくるのではないか、という意見でした。しかし経口中絶薬が許可＝妊娠しない＝性的快樂のために女性が経口中絶薬を使うと暗黙的に思っておられるのではないかと危惧しました。現在アフターピル（経口中絶薬ではなく、経口避妊薬）は日本でも使用可能になっていますが、先日以下の出来事が明るみになりました。ある男性の野球選手が性行為をする相手に対し、コンドームをつけたくないがためにアフターピルを飲むことを勧め、さらには妊娠した相手には金を出すから墮胎しろと言ったと当該女性の親友によって明かされたのです。カトリックではそもそもコンドームをつけるセックスも認めていませんが、それこそ性的快樂が減少すると言う理由でコンドームをつけることさえ嫌がる男性が多数存在しています。男性が性的快樂を求めて女性を相手に避妊しない（コンドームをつけない）ケースは、性暴力の一つとして現在認識されていますが（周知はされていないかもしれませんが）、カトリック教会ではまずこのような男性の姿さえ認識されていないのではないかと今一度しつこいと思われるかもしれませんがお伝えしたいです。

また男性の同意がないと中絶できないというのが日本の現状ですが、これはもう少し具体的に考えるべきでしょう。それこそ相手が避妊もしない暴力的な男性でそこから逃げてきたとしたら？相手と同意を取れるような状態なのか？など、もう少し具体的な事例の中で考えた方がいいと思います。それこそ理念や信念に現実を無理やり合わせるのではなく、現実をまずは直視し具体的に丁寧に受け止めていくことが必要です。

また女性の自己決定が自己責任に回収されてしまうのでは？という疑義がありました。それこそ男性の責任を問わないことが、女性が全ての問題を背負いこまされる自己責任へ女性を追い詰める一歩でもあるはず。また WHO からはむしろ掻爬法が危険とみなされている中で、経口中絶薬が具体的にどの程度安心／安心でないのかをもっと具体的に学ぶ必要があると思います。そう言うことも含めて「性教育」であり、その重要さを今更ながら痛感します。

最後に、松本信愛神父が巻頭言で中絶反対を意図する文章を書かれています。しかしこれが「巻頭言」に書かれていることにより多様な意見を尊重すると言うよりは、シナピスからの意見は「巻頭言」にむしろ回収されてしまっていることとなり正直がっかりしました。松本神父の言葉はむしろ私たちと同じスペースの記事の中に書かれて欲しかったと感じております。シナピスのスタッフや関係者の方々の間でもおそらく意見が完璧に同じではないとも思いますし、その違いこそが大事だと思います。命を、その人のありようを、生活を大切にすることは何を指すことなのかを今一度おのおの考え言葉にすることが重要だと思います。そしてその言葉を聞き合うことで、個々の命を、ありようを、生活を、どうやったら大切にできるかを探ることこそ、日本国憲法ではありませんが「不断の努力」として行うべきことと考えます。



# 9月の祈りの集い

## 第12回「いのちに向き合う」



第12回シナピス主催「祈りの集い～世界平和のために祈る～」を9月8日に行いました。司式は京都教区の奥村豊神父、テーマは「いのちに向き合う」でした。イザヤ書2章の「終末の平和」と「高ぶる者に対する審判」の部分を味わいました。奥村神父はメッセージで人間の知的能力、科学的知識は偶像にもなりうるし、人を幸せにするための道具にもなると話されました。例えば不老長寿の薬が発明されたとして、「この薬さえ飲めば大丈夫」と捉えることも出来るし、本当に人間として生きるための道具として活用することもできる。これを見極めるためには一人一人が自分の中にある傲慢さを取り除き祈りと共に謙虚になることが必要だと仰いました。

科学が進歩する今日、私たちのいのちの在り方を考えさせられるメッセージでした。

集いのなかで、奥村神父がアカペラで聖歌を2曲歌って下さいました。

とても力強い歌声で、特に最後の歌「キリストの平和」の歌詞「平和」「ひかり」「いのち」「ゆるし」「かおり」部分からは勇気と元気を頂きました。神を賛美する歌声に宿る生命力のようなものを感じました。



奥村神父は朝・晩の祈りをユーチューブで毎日配信されています。

### チャンネル名は「奥村豊」

一緒に祈りを捧げませんか。



次回は10月13日(木)20時半からです。  
テーマは「人類の一致を願う」、集いの中でロザリオの祈りを捧げる予定です。

参加は下記 Zoom ID&パスコードを入力  
または、QRコードからお願いします。

ID: 761 071 2034

パスコード:123456



先月 9 月の教皇フランシスコの祈りの意向は「死刑廃止 人間の尊厳を侵害している死刑制度が、すべての国で法的に廃止されますように」でした。

教皇は世界で死刑廃止のために取り組むように、ビデオを通して私たちに呼びかけられたメッセージをお届けします。

また今月 10 月 10 日は世界死刑廃止デーです。

## 教皇の祈りの意向

Pope 's Prayer Intention

For the abolition of the death penalty

## 死刑の廃止

日々、世界中で死刑制度に「NO」を突きつける声が高まっています。教会にとり、これは希望の「しるし」です。法的な観点から言えば、死刑は必要ではありません。

社会は、犯罪者から罪を償う可能性を決定的に奪うことなく、犯罪を効果的に抑圧することができます。

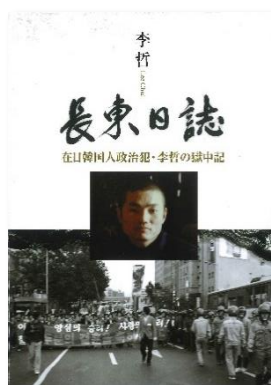
すべての法的判決には、常に、希望の窓がなければなりません。被害者にとり死刑は正義とはならず、むしろ復讐を助長します。そして誤審を取り消す可能性を阻みます。さらに、死刑は道徳的に許されないものです。なぜなら、死刑は私たちが受け取った最も重要な贈り物である命を破壊するからです。最後の瞬間まで、人は回心し、変わることができることを忘れてはなりません。

福音の光に照らすなら、死刑は受け入れがたいものです。「汝、殺すなかれ」という戒めは、罪なき者と罪ある者の両方に向けられています。ですから、私はすべての善意ある人びとに世界中で死刑廃止のために行動するよう呼びかけます。

人間の尊厳を侵害している死刑制度がすべての国で法的に廃止されるよう祈りましょう。

\*教皇のビデオメッセージ（約 2 分）はこちらの動画でも視聴できます。

<https://youtu.be/DjDoFzKeXqA>



### 9 月号掲載死刑廃止セミナー講師の李哲（イチョル）さん著書

◆『長東日誌』—在日韓国人政治犯・李哲の獄中記

発行：東方出版 定価：3850 円（税込み）問合せ：06-6779-9571

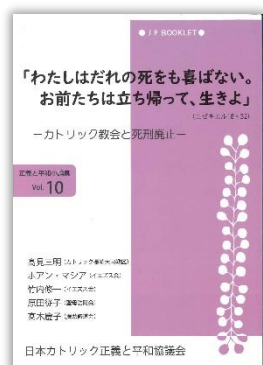
著者紹介：1948 年熊本県出生。1972 年中央大学商学部卒業。1975 年 12 月高麗大学大学院政治外交学科在学中に中央情報部に連行され、「在日留学生捏造スパイ事件」で投獄。1、2、3 審で死刑判決。1988 年 10 月に 13 年間の獄中生活を経て出所。出所後に娘、息子に自身が生きてきた証を残すために獄中記を書きあげた。1990 年在日韓国良心囚同友会結成。2015 年 11 月再審無罪確定カトリック大阪教区生野教会信徒。

◆「わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」(エゼキエル 18・32)

—カトリック教会と死刑廃止—

教皇フランシスコは就任以来、折に触れて世界に対して死刑廃止を強く訴えてきました。それは『カトリック教会のカテキズム』の改訂(2267 番)や、回勅『兄弟の皆さん』(263 番)にも結実しています。そうした現代カトリック教会の思想を受け、いまだに死刑制度を有する日本において、死刑の問題点をキリスト教的観点から考察する論考をまとめたブックレットを発行いたしました。

(日本カトリック正義と平和協議会事務局注文書文章抜粋)





## シナピスホーム便り



やまだ なおこ  
山田 直保子

9月上旬、ホームにも新型コロナウイルスの脅威が襲いかかりました。現在、ホームのシェルターには3名の難民移住者が生活しています。一人の体調が悪くなるとあっという間に全員感染してしまいました。

Sさんは体調が悪くなり、コロナかも…と思って、あとの二人に感染させてはいけないと部屋にこもりました。シナピススタッフにも言いませんでした。一人でじっと我慢していたのです。しかし発熱とのどの痛み、そしておなかを壊して、トイレによく行っていました。



キッチンやトイレや風呂場は共用スペースなので、他の2人も使います。その二日後、Dさんが発熱。清掃奉仕先から体調が悪いと早退しホームに帰ってきました。

その時、私はホームにいたので、すぐにバイタルチェック。38度を超えていて、頭痛、のどの痛みを訴えました。症状的にも感染したなとすぐにわかりました。

コロナかもしれないから部屋から出ないようにと言って、発熱対策などのグッズや、本人がほしいというものを別の難民移住者と買いに行きました。

買い物を終え、重いものが持てない私は、元気な難民さんに2階のキッチンに荷物を運んでもらい、シェルターの住人たちに接触しないようにすぐに降りるようお願いしました。次に私が2階へ行き、Dさんの部屋まで荷物を運ぼうとして気づきました。「ハッ!この荷物どうやって部屋まで運ぼう」と私は慌てました。

何とか指ではなく腕の力でペットボトルを持てないかと試行錯誤し、あの手この手で様々な方法を試しても、アイスノンなど重いものばかり。おなしく床に落ちていきました。自分の無力さに絶望しながら、全てをぶちまけたいような衝動に襲われましたが、ぶちまける力もないのです。笑っちゃいますよね。

一階にいた移住者に助けを求める事も出来ましたが、感染を怖がっていることをよくわかっているため言えませんでした。

シナピスのスタッフにお願いしたら、みんな忙しい中でも必ず助けてくれる事はわかっています。でも、感染の危険があるエリアに入れたくなかったのです。



どうしようもないので、Dさんに部屋から出るなど言ったくせに「荷物を取りに来て」とお願いしました。私は本当に一人では何も出来なくなっているという現実を受け入れているつもりなのに、こういう時に一人でできないことをいつも痛感します。

あとから冷静に考えたら、トイレなどは共有なので、部屋に隔離できないし、部屋から出るのに、なぜか出たらあかんと言っていました。矛盾していますよね。

帰り道、色んなことを考えて泣きながら帰りました。電車に乗ると大泣きしているのでみんなに見られてしまうと、電車に乗らず車いすで移動しながら帰路につき、私が介護職に就いていた時に会ったALS（筋委縮性側索硬化症）の利用者様が、とてもプライドの高い元社長さんで身体はほとんど動かさないのに頭はクリアという状況でした。ヘルパーの私の前で、ご主人とよくケンカをしていて、何とか自分でしたいと残存機能を使って努力している時に、汚されるのが嫌なご主人が怒って「お前は一人で何も出来ないんだから、してもらうしかないやろ！黙っててもらったらいいいねん！」と言われて悔しくて号泣されていました。私も悔しくてご主人に「私が片づけるからどうか見守ってほしい」と頭を下げをお願いしたその時の場面がフラッシュバックしたように頭の中でよみがえっていました。私は何もわかっていなかった。わかったふりをしていただけだったんだと思うと涙が止まらず、帰ってからもずっと泣いていました。

難民移住者と接していて、いつも助けてもらっているのに、知識があってもペットボトル一つ渡せない虚しさ。この人達がしんどい時に何も出来ないなら、私はただの役立たずだと自暴自棄になっていました。

そこに、Sさんの体調が悪いとシナピスのスタッフが聞いたという情報が入りました。

そんな時、私にはルームシェアしている看護師の友人がいるのですが、コロナ禍で毎日夜遅くまで仕事をしている彼女がめずらしく仕事が早く終わり帰ってきました。

状況はメールで報告していましたが、いつまでも泣いてる私を見て「いつまで泣いてるねん。泣いてもなおちゃんの手足に力がつくわけでもない！そんな時間あるなら、私がおちゃんの手になるから行くで！」と、抗原検査キットを持ってホームに一緒に行ってくれました。

差し入れに大量のポカリスエットや食料、アイスクリームなど買っていきました。

ホームについて2階に上がると、まだ感染していないFさんがキッチンでスープを作っていました。体調の悪い2人の為に作っていたのです。

フェイスシールドや2枚重ねのマスク、手袋など完全防備の私たちを見るなり「ああ！ちょうどいいところに。スープ飲みますか？」と笑うのです。

その言葉を聞いた途端、私は全身の力が抜けて、笑ってしまいました。



グジグジ考え込んでた私がバカみたいで、コロナ感染でどうしようと不安な私の気持ちも、何も一人ではできない悔しい気持ちも、Fさんのどんな状況でも相手を思いやるという優しい気持ちに救われたのです。

看護師の友人もシェルターの住人たちが平和すぎて全身の力が抜けたと言い大笑いしていました。



抗原検査の結果、二人とも陽性。陽性の場合には受診しなくても無料(国費)で薬が処方できることで、何万人と感染者がいる中で、なかなか検査してくれる病院も見つからず、頼もしく動いてくれた友人に本当に助かりました。

まだ感染していないFさんは一番気を付けなければいけません。共有部分のアルコール消毒を徹底して、特にトイレは気をつけるように消毒の仕方を伝授したり、SさんDさんにはしばらくは熱が出てのども痛いのでゆっくりやすむよう話しました。

私が昼間に何も出来なかった話をしたら「何も気にする事はない。そんなこと誰も気にしていない」と笑ってくれました。

いつでも救ってくれるのは苦しい状況の当事者たちです。だからこそ、この仮放免という状況や様々な辛い状況を変えるために私たちはもっと頑張らなければならない。本当に泣いている暇なんかないのです。ホームに行くときは泣いていたのに、帰り道はほんわかした気分と、もっとできることをしなければ、頑張らなければという強い気持ちを持って、朝から働いて身体は疲れ切っているのにココロは満たされるという不思議な感覚で帰宅しました。

後日談ですが、Fさんも翌日、発熱し、感染しました。「シナピスホームではなく、コロナハウスだね」と笑っていました。

おかげさまで全員重症化することもなく、回復しました。カフェをお休みし、たくさんの方にご心配おかけしましたが、みんな元気です!





# みんなのけいじばん



## ボランティア募集

### ・英語通訳ボランティア

難民申請に関わる聞き取りなどを同時通訳できる方

### ・インターナショナルデー【10月16日(日)】

インターナショナルデーのイベント会場設営・撤収、会場消毒作業など

特に前日15日(土)15時ころからの会場テント設営にご協力くださる方  
10月5日ころまでに **シナピス** へご連絡をください!



## 寄付のお願い

常日頃シナピスの活動にご協力をくださり有難うございます。

**お米**が少なく困っています(>\_<)

小教区や周りの皆様に呼び掛けをお願いいたします。

問い合わせは **シナピス** までお願いいたします。



## 要約筆記練習会

やってみませんか? パソコンノートテイク

要約筆記グループ“エッフアタ!”では練習会をしています。

日時:毎月第2水曜日 10時~12時

場所:教区本部事務局

持ち物:パソコン

※参加費無料

パソコンを打つのが得意な方、得意でない方も一度のぞきにきてください。

事前に連絡をください。Email: 201synitta@gmail.com



↓↓シナピス連絡先↓↓

TEL : 06-6942-1784 / FAX : 06-6920-2203 / email : [sinapis@osaka.catholic.jp](mailto:sinapis@osaka.catholic.jp)

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

# シナピスの風

\*掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第153号 2022年10月2日発行

## 10月の祈り

「求めなさい。そうすれば、与えられる」  
(マタイ7・7)

慈しみ深い父よ、  
わたしたちは、多くの人々とともに、  
また、平和を願い求めています。  
今、戦争がもたらす苦しみを  
負わせられている人々とともに。  
わたしたちのように、悲しみと怒りをもって、  
戦争の状況を毎日見ている人々とともに。  
この平和の願いを具体的な行動を通して  
表す知恵と力をわたしたちに与えてください。  
身近なところを初め、日本の社会や世界において  
平和のために働く決意をお捧げいたします。  
わたしたちの弱さと力不足を支えてください。  
主イエス・キリストによって。アーメン。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。  
教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。  
シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

## シナピスカフェ

★毎週水曜日 13時ごろ～16時ごろ

10月の開催：5・12・19・26

★月1回土曜日 11時ごろ～16時ごろ

10月は**お休み**します。

シナピスホーム：生野区中川6丁目6-23

☎：080-8940-8847

## 2021年正義と平和大阪大会 分科会録画(動画)限定公開!!

大会で開催された分科会の録画(動画)を編集したものを限定公開します。著作権に抵触する部分や個人情報保護に抵触する部分は削除・編集しています。その他も準備完了後、順次公開をしていきます。教会のグループ学習等でご利用ください。

視聴方法や申し込みはこちら ▶▶▶

カトリック大阪教区ホームページ内「正義と平和大阪大会」をクリックしてください。



## ボランティア募集中



★同時通訳(英語での会話通訳)  
★運転(送迎や荷物の運搬)  
急募 → ★国際デー10/16(日)  
(会場設営撤収・来場者誘導・会場消毒・ゴミ回収) など

\*国際デーについては10月5日(水)までにシナピスまでご連絡をください。



## オンライン祈りの集い

～世界平和のために祈る～

テーマ:「人類の一致を願う」

10月13日(木)20時半～(30分)

Zoom ID&パスコード(100名まで参加可)

ミーティングID: 761 071 2034 パスコード: 123456



## シナピス工房 クリスマスカタログ Vol.5

今年もクリスマスに向けてみなさまに喜んでいただける人気グッズや新作の作成に取り組んでいます。クリスマスに贈るプレゼントは是非ともシナピスでお求めください♪



総額 3,000 円以上  
ご寄付を頂いた方に  
ステキなプレゼントを  
1つ差し上げます!

\*カタログ商品は11月からのお届けとなります。

シナピスでは 移住者やボランティアの方々とともにロザリオやカード、雑貨などをつくり皆さまにご提供させていただいています。ご寄付は難民移住移動者の生活支援に役立てられます。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

### 支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、米などのご支援をお願いいたします。

感謝



## シナピス公式 Instagram・LINE ができました!

さまざまなお知らせや情報を発信!

👉友達追加はQRコードから👈



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス  
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203  
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」ご希望の方はシナピスまでお申込み下さい。

# シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！  
👉 友達追加は QR コードから 👈



活動へのご支援ご協力  
よろしくお願ひいたします。



郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願ひいたします。



支援物資提供のお願い

米、缶詰、ハラル食品、レトルト食品  
テレフォンカード、不織布マスク



お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784



HP はこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

あとながき

夏休み前に、「平和」をテーマに18歳までの子どもたちを対象に絵画コンテストの募集をしました。嬉しいことに大阪教区にとどまらず、他教区からも応募があり、郵便が届くたびにシナピスの事務所では歓声があがりました。封筒を覗き込み、開封した時のみんなの顔といったらどうでしょう。日ごろ、厳しい現実と向き合いながら活動している私たちにとって、心が洗われる瞬間、笑みがこぼれました。子どもたちが望む「平和」が訪れますように、その道具となれますように、とこころから願ひます。大司教とセンター長は、目を凝らして真剣な眼で一枚一枚に目を通していました。今月は賞状の授与式をします。遠方の方とはZoomでの授与です。コロナがなければこのような方法も考えつかなかっただしょうね。

ところで、今回は初めての試みで18歳までに制限しましたが、なんと「どうして18歳までなの？私たちが描きたいのに！！次は年齢制限しないで」と反響がありました。来年は是非その声に応えたいと思います。(H)

## ▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

### ◆ 広報活動

- ・ 教皇メッセージ、司教団メッセージ等 社会活動の指針の伝達
- ・ 読者と教会内外の社会活動をつなぐ 機関誌としてシナピスニュースを発行

### ◆ 大阪教区・社会活動委員会との連携

### ◆ 学習会研修会の企画

### ◆ こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

### ◆ カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

### ◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

### ◆ 難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

### アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



### ● 公共交通機関ご利用の場合

- JR 森ノ宮駅より 約 1000m
- 地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m
- JR 玉造駅より 約 1000m
- 地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

### ● 車でお越しの場合

- 阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口
- 法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがひします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス





# 忘れない \*あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



## 2022年 10月 の案内

★印 カトリック関係

### 2022年 祈禱の信徒 祈りの意向 10月

教皇の意向： すべての人に開かれた教会  
 信仰にあふれ、福音を宣べ伝える力に満ちた教会が、  
 連帯、友愛、款待の共同体として、常にシノドス（代表司教会議）の雰囲気の中に生きることができますように。

日本の教会の意向： 医療従事者  
 医療従事者のために祈ります。  
 コロナ禍の中で、病床にある人や高齢者のために働く人々が、看護や介護を通して神の愛を伝えることができますように。

1	土	<b>国際高齢者デー</b> <b>●あきらかになったカルト宗教と保守政治 教科書運動はどう取り組むか</b> ■場所:エルおおさか南館5階ホール 13時半開場 14時開会 資料代:1000円(学生、しょうがい者無料) 第1部:講演 有田芳生さん(ジャーナリスト前参議院議員)「失われた30年 旧統一教会はなぜメディアから消えたのか」 第2部:教科書採択をめぐる状況と今後の課題 オンライン併用(要事前申し込み) 主催:「戦争教科書」はいらない!大阪連絡会 facebook:「子どもたちに渡すな!あぶない教科書」で検索 <b>●市民集会 東大阪で多文化共生教育を考えよう!</b> ■場所:イコーラムホール 14時~16時半 講演:「多文化共生の実験室 大阪から考える」講師:高谷幸さん(東京大学大学院人文社会系研究科准教授) 「東大阪の在日朝鮮人教育の歩み」講師:岡野克子さん(元東大阪市教員元東大阪市在日外国人教育研究協議会事務局長) 手話通訳あり 資料代:1000円(学生、しょうがい者無料) 主催:オール東大阪市民の会 事務局:喫茶美術館 連絡先: Tel 06-6725-0430 ✉ wanelbunkasha@yahoo.co.jp
2	日	<b>世界統計デー</b> <b>国際非暴力デー</b>
4	火	<b>世界ハピタット・デー</b>
5	水	<b>世界教師デー [UNESCO]</b>
6	木	<b>●戦争あかん!ロックアクション 御堂筋デモ</b> ■場所:新町北公園 18時半~ 19時10分デモ出発 主催:戦争あかん!ロックアクション 連絡先:Tel 090-5063-0073(平日16時半以降、土日午後)
7	金	<b>世界コットンの日</b>
8	土	<b>世界渡り鳥デー</b> <b>●「仮放免者の人権保障、入管・難民法制の問題点」</b> オンライン(Zoom)1000名限定 要事前申し込み 参加費無料 申し込み先: <a href="https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_YlslxFcR8KBr4-nFZ196w">https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_YlslxFcR8KBr4-nFZ196w</a> (締め切り10月5日) 主催:近畿弁護士会連合会人権擁護委員会事務局 連絡先: Tel 06-6364-1227 fax 06-6364-7477
9	日	<b>世界郵便の日</b> <b>●2022南京の記憶をつなぐ上映会 &amp; 松岡 環さんのお話</b> ■場所:栗東芸術文化会館 さくら中ホール 13時開場 13時半開始 映画「マギー牧師が見た南京大虐殺」上映 お話「国際安全区は女性たちを守ったか?」講師:松岡環さん(銘心会南京代表) 参加費:1000円 学生500円 主催:南京の映画をみる会 連絡先: Tel 090-7113-3122 <b>●ドキュメンタリーを視て語るつどい</b> ■場所:大阪市立北区民センター 18時~ 上映「ロシア発エネルギーショック」「ワグネル・影のロシア傭兵部隊」「バーゲン・ジャパン世界に買われる安い日本」 主催:映像で現代を語る会 連絡先: Tel 090-5151-9763(中森)
10	月	<b>世界メンタルヘルス・デー [WHO]</b> <b>●アフガニスタン最新取材報告会「アフガニスタンの今と中村哲さんの用水路」</b> ■場所:大阪市立西淀川区民会館ホール 14時~ 入場無料 主催:イラクの子どもを救う会 連絡先: Tel 06-6170-4757 ✉ nishinishi@r3.dion.ne.jp <b>●地域から変える食と農の未来~ローカルフード法・条例 学習会</b> ■場所:ひと・まち交流館京都(3階)第5会議室 13時半~16時半 上映:「タネは誰のもの」未公開映像 報告:川田龍平さん(参議院議員) オンライン参加14時~(要予約 ✉ kyoto.globaljustice@gmail.com 締め切り10月9日) 参加費:500円 主催:「食の安全を守る人々」上映 京都実行委員会 連絡先: Tel 080-2742-2590 <b>●「改定新版 統一教会とは何か」著者有田芳生さんによるリアル&amp;リモートイベント</b> ■場所:ドーンセンター 13時半開場 14時~16時 テーマ「統一教会と政治の関係は、どう築かれてきたのか?」 リアルトークイベント(限定150名)参加費:3000円(本付き)当日は500円アップ 2000円(本無し)当日は500円アップ リモートトークイベント(限定100人)費用:3200円(本付き)1500円(本無し) 主催:陸祥館書店 申込・問合せ: Tel 06-6768-1023 ✉ ryushokan@eos.ocn.ne.jp
11	火	<b>国際ガールズ・デー</b>

13	木	<p>国際防災の日</p> <p>●森友事件は未解決だ! 怒りのデモ 第64回 ■場所:大阪城公園「世界連邦平和像」前広場 18時集会 19時デモ出発 主催:「森友学園疑獄」を許すな!実行委員会 連絡先: fax06-6304-8431</p> <p>★シナピス主催オンライン祈りの集い〜世界平和のために祈る〜 20時半〜30分 参加費無料 ミーティングID: 761 071 2034 パスコード: 123456 Zoom100名限定 主催:カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス 連絡先: Tel 06-6942-1784 ☒ sinapis@osaka.catholic.jp</p>
15	土	<p>農山漁村女性のための国際デー</p> <p>●天皇出席の沖縄国民文化祭反対10・15大阪集会 ■場所:エルおおさか701号室 13時半〜16時半 講演:「文化とは政治である」(仮)講師:菅孝行さん(評論家・劇作家) 参加費:1000円(経済的に厳しい方は受付まで) 主催:参戦と天皇制に反対する連続行動 連絡先: Tel-fax 06-6303-0449</p> <p>●韓国サンケン電気 争議報告関西集会 ■場所:エルおおさか606 18時開場 18時班開始 ビデオ上映 韓国サンケン労組訪日団挨拶他 参加費:500円 主催:おおさかユニオンネットワーク 韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会</p>
16	日	<p>世界食料デー [FAO]</p> <p>★インターナショナルデー</p> <p>●22年 市民の力で社会を変えよう!連続市民講座① ■場所:尼崎総合文化センター7階 14時〜 「市民の声をしっかり生かす」講師:中川智子さん(前宝塚市長)事前申込要 参加費:500円 主催:同実行委員会 連絡先: Tel 090-5132-0028(小柳)</p> <p>●新聞記者の取材で見えてきた「原発の実相」と「人々の姿」 ■場所:宝塚市男女共同参画センター1AB 14時〜16時半 講演:大島秀利さん(毎日新聞専門編集委員) 参加費:300円 Zoom配信あり(要申込 akikkoskmtkn@nifty.com) 主催:原発の危険性を考える宝塚の会 連絡先: Tel 0797-74-6091</p>
17	月	<p>貧困撲滅のための国際デー</p>
22	土	<p>●とめよう! 戦争への道・めざそう! アジアの平和 2022秋 関西のつどい ■場所:エルシアター(エルおおさか2階)13時半開場 13時50分開会 15時35分開会 閉会后デモ(予定) 講演:新垣邦男さん(衆議院議員) 佐々木寛さん(新潟国際情報大学国際学部教授) 資料代:500円(中高生・介助者無料)※手話通訳あり 主催:とめよう! 戦争への道・めざそう! アジアの平和 2022秋 関西のつどい実行委員会 大阪教組・大阪平和人権センター 連絡先: Tel 06-6351-0793 しないさせない戦争協力関西ネットワーク 連絡先: Tel 06-6364-0123 中北法律事務所気付</p>
23	日	<p>●標の中のジャンヌ・ダルク ライブ@釜ヶ崎 ペペ Paix2 ■場所:大阪ピースクラブ4階ホール 14時半開場 15時開演 参加費:1000円【定員50名】 事前申込要 問合せ・申込: Tel 0798-49-5302 fax 0798-49-5309(福本)または Tel 090-7356-1747(尾崎) ☒fukumoto@rokusaisha.com</p>
24	月	<p>国連デー 世界開発情報の日</p>
27	木	<p>世界視聴覚遺産デー [UNESCO]</p>
28	金	<p>情報へのユニバーサル・アクセスのための国際デー [UNESCO]</p>
29	土	<p>●天皇制を考える市民講座「豊かな海づくり」の欺瞞 ■場所:神戸学生青年センター ウェスト100 ホール 13時半〜 講師:末田一秀さん(環瀬戸内海会議副代表、反原発新聞編集長) 参加費:700円 共催:はんでんの会(兵庫反天皇制連続講座) 神戸学生青年センター 連絡先: 神戸学生青年センターTel 078- 891-3018</p> <p>●「日の丸・君が代」強制反対大阪ネット総会・集会 ■場所:エルおおさか709 14時〜 特別報告(ビデオ講演)「部落差別と天皇制〜全国水平社創立100周年に際して」講師:黒田伊彦さん(大阪ネット前代表) その他 オンラインあり(要事前申込) 入場無料 主催:「日の丸・君が代」強制反対・不起立処分を撤回させる大阪ネットワーク</p>
30	日	<p>●戦時性暴力をテーマにした芝居 南澤あつ子一人芝居「市長公室の木村さんが」■場所:スペースふうら 13時半開場 14時開演 上演・アフタートーク 平井美津子さん(子どもと教科書大阪ネット21事務局長)チケット要予約・当日清算のみ 前売り・当日共に2000円 申し込み先:Tel 090-1223-7120(平日12時〜18時) ☒ 2022fuura@gmail.com 主催:「あの少女・木村さん」関西上演実行委員会</p> <p>●戦争はいやや!核なんかいらへん!FESTIVAL2022 ■場所:長居公園 自由広場 10時開会 参加費無料 主催:反核フェスティバル実行委員会 連絡先:Tel 090-3929-0053(テラサワ)</p>
3	木	<p>●かがやけ憲法! 平和といのちと人権と ■場所:扇町公園 14時開会 終了後パレード 岡野八代さん×若者トークセッション「憲法って何だろう」〜仕事・コロナ・平和〜 高良鉄美参議院議員 川口真由美とおもちゃ楽団 他 主催:おおさか総がかり行動実行委員会 連絡先:大阪憲法会議・共同センター Tel 06-6352-2923 戦争をさせない100人委員会・大阪 Tel 06-6351-0793 しないさせない戦争協力関西ネットワーク Tel 06-6364-0123 http://so-gakari-osaka.net</p>
6	日	<p>●22年 市民の力で社会を変えよう!連続市民講座③ ■場所:宝塚男女共同参画センター 14時〜 小野元裕(日本ウクライナ文化交流協会会長)「ウクライナ侵略反対〜ウクライナの歴史と文化から考える」 事前申込要 参加費:500円 主催:市民の力で社会を変えよう! 連続市民講座実行委員会 連絡先:Tel 090-5132-0028(小柳)</p>